



9月号

赤目まちづくり通信

発行/赤目まちづくり委員会(赤目市民センター) 〒518-0465名張市赤目町丈六238-1

E-mail: akame-ko@emachi-nabari.jp

TEL&FAX: 63-0329

濱地・宮本・堀内各部長あいさつ・抱負

防犯・防災部会 部長 濱地俊宏
赤目まちづくり委員会 防犯防災部会部長を拝命いたしました濱地俊宏(はまじ としひろ)と申します。よろしくお願いいたします。

2010年度名張市消防団赤目分団分団長に就任以来、赤目まちづくり委員会に携わらせていただき今年度で13年(分団長11年、名張市生活推進協議会防災部会委員2年)となります。

大型台風・大雨による土砂災害や河川氾濫といった自然災害が各地で発生していること、また今後発生すると思われる大規模地震に備え防災の整備が必要となっています。

自助・共助・公助とよく言われますが、やはり一番大事なのは「自助」、自分自身が助かることだと私は考えております。

防犯防災は自分一人では対応することが限られてしまいますが、少し意識していただくことで可能性は大きく広がります。日頃から備えや心構えをお願いいたします。

自助と共助で「みんなで助かるまちづくり」を進めていきたいと考えておりますので、赤目地域の住民皆様の更なるご協力をよろしくお願いいたします。

環境部会 部長 宮本 篤

本年度も引き続き、環境部会として活動させていただきます柏原区の宮本篤(みやもと あつし)です。

いよいよ里地里山の景色も秋めいて来ました。特に田園の姿と移ろいは毎年見ていると本当に和やかで日本の原風景を感じさせてくれます。御存じの様に、赤目は南側から国定公園、県立公園と3分の2が自然公園で国と県から指定された風致景観の保護地域となっています。この素晴らしい地域に暮らし営む我々は、それを楽しみ、愛おしみ、そして後世に残して行かなければなりません。

本年度の活動目標でもあります、環境維持の観点で、地区内外への自然公園エリア看板の設置、ごみポイ捨て抑止看板の作製・設置等、市との連携も取りながら実施したいと考えてます。今後、観光道路である県道赤目線道中にも啓蒙看板が立てられる様、住民の意識アップを図りたい。きれいな町には、移住定住したい人が増えてゆく希望があります。何卒よろしくお願いいたします。

地域振興推進部会 部長 堀内節生

初秋の候、皆様方にはお元気にお過ごしのことと思います。さて、昨年に続き地域振興推進部会をお引き受けしました。丈六区の堀内節生(ほりうち せつお)です。何卒よろしくお願いいたします。

今年度も地域振興推進部は、赤目口駅「旅のステーション」周辺、忠魂碑周辺、「みんなのゆめ広場」、通学路等の保全・清掃・整備活動を通じて、地域に花と潤いのあふれる住みよい地域・まちづくりをしていきたいと思っています。

また、これらの活動が地域の皆さん・子どもたちの健全育成と健康生活の維持につながればと思っています。

かけがえのない赤目の歴史資源・自然の保全に努め、ふるさと「赤目」を訪れて良かった、住みたい・住み続けたいと云われる地域に、「地域の資源を有効に活用して持続的な発展をすることを目指したい」と思います。皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

サークル紹介…雨にも負けず、コロナにも・熱中症にも負けず、がんばって活動しています。



コーラス「さくらどろっぷ」

健康体操「自彊術あかめ」

卓球「白颯(はくりゅう)」

区長会・防犯防災部合同会議

8月6日(土)19時より「令和4年度名張市総合防災訓練」11月14日(土)予定の事前会議が行われました。今年度は、新たに小中学校との合同訓練を開催するため小中学生の第一次避難所への参加確認。消防団との合同訓練内容や安否確認シートの活用等の打合せを区長部会・防犯防災部会合同で行いました。



児童クラブ「げんきっず」来訪

8月18日(木)錦生赤目小学校区の放課後児童クラブ「げんきっず」のお友だち38名が赤目市民センターに来てくださいました。地域学校支援ボランティアの布村進さん(一の井区)が手品を披露など楽しい時間を過ごしました。



「みんなの夢ひろば」草刈り

まちづくり委員会及び地域振興推進部会で、8月20日(土)早朝7時より「みんなの夢ひろば」の草刈りを実施。広場と法面を21名の方々の参加で、無事午前中に完了しました。また今後とも定期的に整備を行い、皆さんに喜んで使って頂けるよう努めてまいります。



赤目竹あかり SDGs 第二回会議開催

今年度2回目の赤目竹あかり SDGs プロジェクト(瀧野リーダー)会議を8月27日(土)午後1時半より23名出席で開催。現状確認・今後の活動計画等の報告の後、メンバーの連絡確認方法・部会ごとの打合せを実施。



9月よりA4(白黒)コピー5円に。詳細は、市民センターまで。

名張市指定ゴミ袋取扱、紙おむつ専用ごみ袋(無料交付)
特大 45リットル 10枚 480円・大 30リットル 10枚 300円・中 20リットル 10枚 180円・小 10リットル 10枚 80円
紙おむつ専用ごみ袋は、対象者一人当たり30枚以内。

赤目まちづくり委員会
赤目市民センター

ホームページ



赤目まちづくり委員会・市民センターの情報がホームページでご覧いただけます。
※スマホ・携帯電話で左のQRコードを読み取って下さい。

子供も大人も、参加自由

赤目町の皆様へ

赤目まちづくり委員会

竹細工 竹あかりづくり

赤目竹あかり SDGs プロジェクトでは、竹を利用した工芸品「竹あかり」「竹細工」の製作を推進しています。間伐材の利用で、地域おこし・活性化を考え新たな取り組みをして参りました。子どもさんも、ぜひ一度ご参加ください。(名張ケンコー!マイレージ対象)



- ・開催日 令和4年10月1日(土)9時半より 赤目市民センター・大会議室
- ・内容 電動ドリル、小刀による竹細工・竹あかりづくり
- ・参加料 竹あかり製作1000円・竹細工500円 (どちらか選択ください。)(材料費・工具貸し出し料含む)・定員20名で締め切ります。
- ・受付 竹の準備のため9月22日(木)までに、下記申込書をご記入の上、参加費を添えて赤目市民センター(電話 63-0329)にお申し込み下さい。
- ・出来上がった作品は、市民センターまつり(10/29~31)で展示させていただきます。

赤目市民センター「竹細工・竹あかりづくり」に参加を申し込みます。

ふりがな

名前/ (年齢 歳) 男・女

住所/ 電話番号/

9月5日～10月2日までの予定

月	火	水	木	金	土	日
9/5	6	7	8	9	10 国保特定検診 (大会議室)	11
12	13	14 ふれあいサロン	15	16	17	18
19 敬老の日	20	21	22	23 秋分の日	24	25
26	27 	28 ふれあいサロン 忍たま広場	29	30	10/1 竹細工・竹あかりづくり	2

<注意>9/14(水)に予定していました工場見学会は、中止になりました。

10月の行事予定

- ★10/1(土)竹細工・竹あかりづくり
- ★10/12(水)ふれあいサロン
- ★10/16(日)赤目歴史散策
- ★10/18(火)料理教室
- ★10/20(木)サンサンカレー
- ★10/26(水)ふれあいサロン・忍たま広場
- ★10/29(土)～31(月)市民センターまつり

※赤目市民センターでは、コロナ対策として、検温・マスク着用・消毒・換気、名簿の作成など、3密(密集・密接・密閉)を避けて運営しています。しかしながら状況に応じ、中止・延期になる場合がありますので、ご注意ください。

赤目市民センターまつりの開催について

昨年に続き本年も「展示」会場を設け開催を予定。

つきましては多くの皆様の出品・展示をお願い致します。
実施予定日 10月29日(土)～10月31日(月)(3日間)
「隠学歴史講座」10月30日(日)10時より大会議室

Vol.32 新・歴史散策紀行…「伊賀・赤目文化遺産」(各区・地域の名所・名品を募集しています。)

「赤目のむかし話 Part.2」

第二作は、赤目のシンボル「竜神山」と水に関わるお話を。

竜神さんの由来(柏原区)

今から150年ほどむかしの元治元(1864)年頃、村に青山源治と云う人があってな。魚を仕入れてきて、それを売る商売をやっていたのや。この源治は、1日に20里(約80キロメートル)も歩く脚力の持ち主であってな。ある日のことや。源治はいつものように脚力にものをいわせて伊勢の浜へ魚を仕入れに行った際にな。ついでにお伊勢さんにお参りに行ったんや。このとき、神社に敷かれている白石が、あまりにも白く光りして美しかったもんで、そと一つ、魚を入れる箱の中へ入れて持ち帰ることにしたのや。帰る途中、青山峠で一休みしたんや。「どれ、石はどうか。」なんと色石であったはずが、白へびであったんやから驚きったらありゃあせん。「白石が白へびに変わるとは、まことに不思議なことだわい。」そのままふたをして、急いで村に帰ってな。ふたをとって見ると、今度は白石のままであったのや。あまりの不思議さに源治は、名主五人組に相談したんや。「不思議な石じゃ。この石はへびの化身かも知れんの。へびは雨を呼ぶということやさい、まつらうやないか。」ということになって白石を竜神として、山の峰にまつたのや。それ以来、干ばつになったら、山の峰で火をた

くことにしたんや。すると、雨が降ったんや。<話・三村相之助さん 明治32(1899)年生まれ>

七つ池(星川)

昔々、星川は、川が少なくて田んぼに引く水がとても不足してたんですわ。村人たちは二十四か所に田んぼを造らなあかんで、寄り合いを開いて相談。よい案は浮かばへんかったんやけど、一人がため池を造ろうと言い出し、これには村人たちも大賛成。けど、一つや二つとちがうので、すぐ造れるわけがあらへん。で、畑仕事の合い間に仕事をすることにしたんじゃ。多くの田、畑を掘って少しずつ池を造り始めたんやけどこの事業は、裕福でなかった村人にとって、たやすいことではのうてな。若い衆はもちろんのこと、年寄りや子供までも一緒にあって、一日も休むことなく池造りに励み、とうとう七つ池が完成したんや。

七つのうち四つは「お池」「さら池」「うやま池」「丸池」と呼ばれ、二十四の田んぼに豊富な水を与えるようになったんや。そして七つ池は一年中水を涸らすことがなく、田に水を引くことができるようになったんですわ。<話・宮下修さん 明治36(1903)年生まれ>

農山村地域では、稲作に水は不可欠な存在、まさに水は昔から生命の泉です。



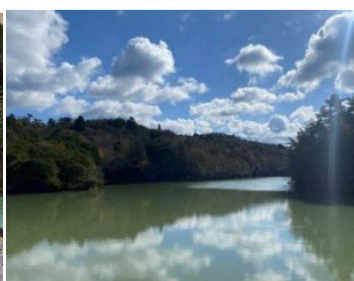
竜神山



白へびと祠



海神社(竜神さん)



七つ池(お池)



七つ池の堤



七つ池下池